

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
科目名	応用数学C	担当教員	森口博文		
学年学科	4年 電子制御工学科	後期	必修	1単位(学修)	
学習・教育目標	(D-1) 100%	JABEE 基準1 (1) : (c)			
授業の目標と期待される効果： 直接測定可能な量の実数と異なるが、多くの工学的分野や他の応用数学に適用される複素関数の微分や積分を理解し計算できることを目標とする。具体的には以下の項目を目標とする。微分積分や線形代数を含む数学は基礎知識として関連あり、微分積分などの応用事例としての理解が深まることも期待できる。 ①正則とコーシー・リーマン方程式の理解 ②いろいろな基本的な正則関数の理解 ③複素積分の定義とコーシーの積分公式による計算 ④留数と留数定理による複素積分の計算 ⑤複素積分の応用としての実積分の計算 ⑥関数の等角写像やローラン展開などの計算		成績評価の方法： 中間試験 100点+期末試験 100点+課題・小テスト等 16点とし、総得点率(%)によって成績評価を行なう。課題・小テスト等には、授業中の教室内演習の結果が大きく反映される。 達成度評価の基準： 教科書の練習問題と同レベルの問題を試験で出題し、6割以上の正答レベルまで達していること。なお成績評価への重みは、①～⑤はほぼ同程度とする。 ①複素関数の微分と正則、その条件であるコーシー・リーマン方程式に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる。 ②いろいろな基本的な正則関数に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる。 ③複素積分の定義、コーシーの定理や積分公式を利用した複素積分に関する計算問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる。 ④ローラン展開と留数定理の関係を理解し、留数定理による複素積分に関する計算問題がほぼ正確に(6割以上)解くことができる。 ⑤複素積分の応用としての実積分に関する計算問題がほぼ正確に(6割以上)解くことができる。 ⑥複素関数の等角写像やテイラー展開・ローラン展開の計算問題がほぼ正確に(6割以上)解くことができる。			
授業の進め方とアドバイス： 教科書、画像提示とプリントを使用し、授業を進める。その要点を中心にして各自ノートを充実させるとともに、理解度向上のために(例題等を参考に)演習問題をノートに自分の手で解くこと。この演習と、理解度を確認するための課題や小テストなどは評価対象である。授業と演習を通じて自分の数学の知識を確認して、復習や予習の自宅学習も必要である。					
教科書および参考書： 基礎解析学(改訂版)(矢野、石原・裳華房)を教科書として用いる。技術者のための高等数学4. 複素関数論(倍風館)、電気・電子・情報系の基礎数学Ⅲ(東京電機大学)を参考書として学習するとよい。					
授業の概要と予定：前期			教室外学修		
第 1 回：	複素関数の微分(微分の定義、正則、導関数)	極限・微分に関する演習問題			
第 2 回：	複素関数の微分(コーシー・リーマンの方程式、正則)	正則に関する演習問題			
第 3 回：	複素関数の微分(調和関数、基本的な正則関数)	調和関数や基本的な正則関数に関する演習問題			
第 4 回：	複素関数の微分(基本的な正則関数、逆関数、対数関数)	基本的な正則関数や対数関数に関する演習問題			
第 5 回：	複素関数の積分(複素積分の定義、不定積分、コーシーの定理)	複素積分の定義やコーシーの定理に関する演習問題			
第 6 回：	複素関数の積分(コーシーの積分公式(表示))	コーシーの積分公式(表示)に関する演習問題			
第 7 回：	複素関数の積分(コーシーの積分公式(表示)の拡張)	コーシーの積分公式(表示)の拡張に関する演習問題			
第 8 回：	中間試験				
第 9 回：	複素関数の積分(テイラー展開とローラン展開)	テイラー展開とローラン展開に関する演習問題			
第 10 回：	複素関数の積分(特異点の分類と極・留数)	極・留数に関する演習問題			
第 11 回：	複素関数の積分(留数定理による複素積分)	留数定理に関する演習問題			
第 12 回：	複素関数の応用(三角関数を含む実定積分)	三角関数を含む実定積分に関する演習問題			
第 13 回：	複素関数の応用(有理関数の無限積分)	有理関数の無限積分に関する演習問題			
第 14 回：	複素関数の応用(三角関数を含む有理関数の無限積分)	三角関数を含む有理関数の無限積分に関する演習問題			
第 15 回：	複素関数の応用(等角写像)	等角写像に関する演習問題			
	期末試験	-			
第 16 回：	フォローアップ(期末試験の解答の解説など)	-			